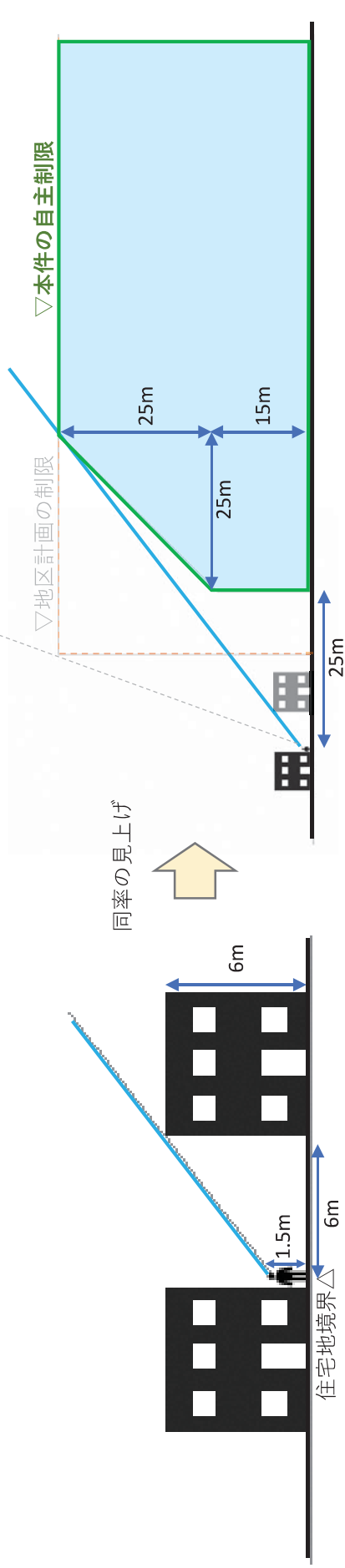


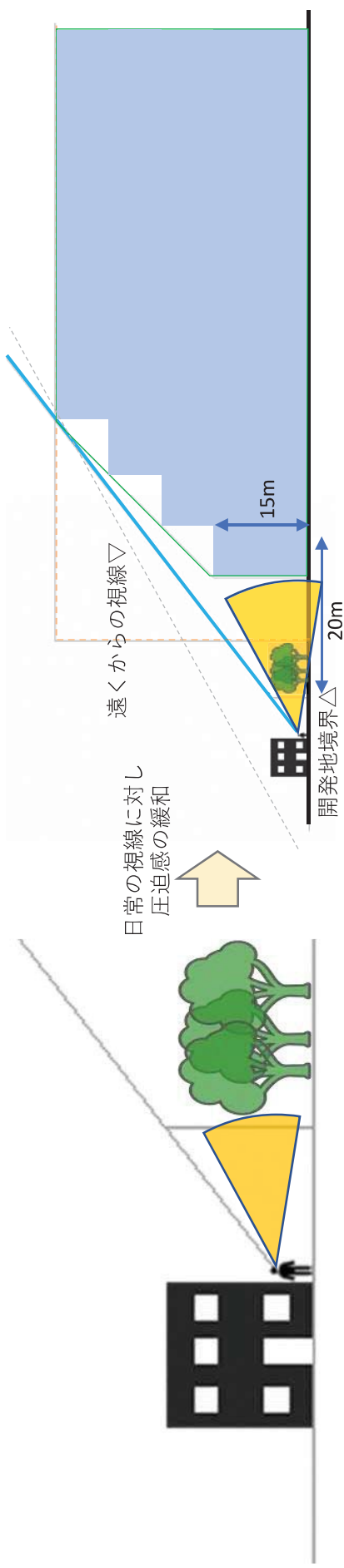
提案者追加資料 高さ関係の補足①

【補足1】 第二回説明会資料で対応方針として、**住宅地境界からの離隔距離（25m以上）及び高さ制限（傾斜率及び低層範囲）**を示した。この考えに至ったコンセプトを補足説明する。

コンセプト）下図の通り既存住宅向えに新設住宅が建った場合と同率の見上げとする。（仮定は下図の通り）



【補足2】 第二回説明会資料では、建物の圧迫感に着目し樹木を透過や間引いて表現していたので、樹木の効果を補足する。次頁以降のパースにもある通り、住宅地側の開発地に樹木を配置することで、**特に近い視線に対し建物に対し圧迫感を軽減**する。遠くからの視線は、そもそも見上げる角度が低い為、圧迫感は距離に応じ軽減される。



パース資料の補足①

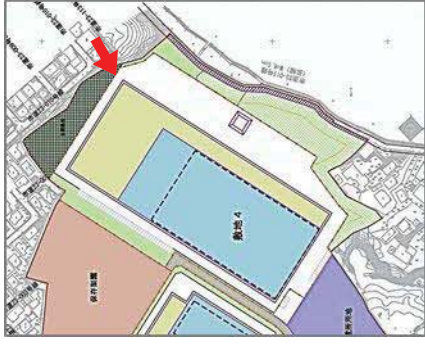
第二回説明会資料にて使用したパースは、第一回説明会プランとの住宅地からの見え方（GL+1.5m）との対比を分かりやすくするため、樹木を透過し本数を間引いて表現していた。前回の都市計画審議会でのご指摘を受け透過及び本数を間引く表現を無くしたパースを補足する。



樹木を開発地境界へ配置することで建物の圧迫感を軽減している。これにより、圧迫感を感じやすい近いからの視線に対しより軽減効果を発揮する。

パース資料の補足②

第二回説明会資料にて使用したパースは、第一回説明会プランとの住宅地からの見え方（GL+1.5m）との対比を分かりやすくするため、樹木を透過し本数を間引いて表現していた。前回の都市計画審議会での指摘を受け透過及び本数を間引く表現を無くしたパースを補足する。

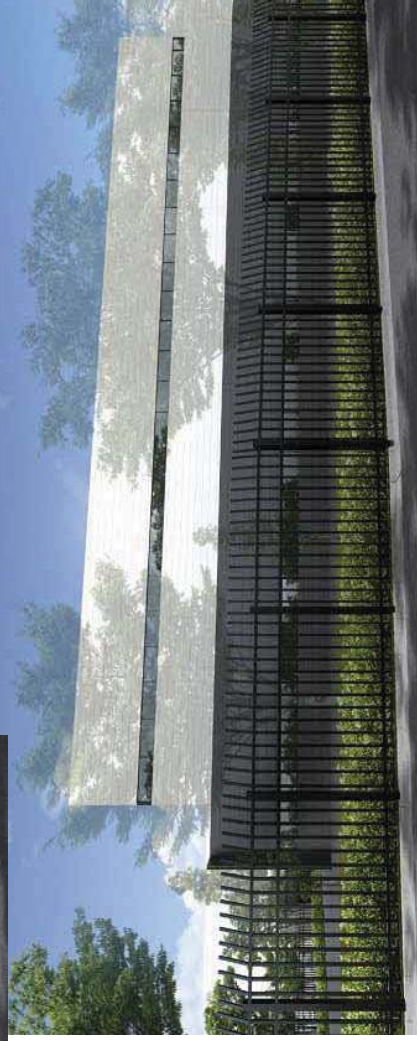
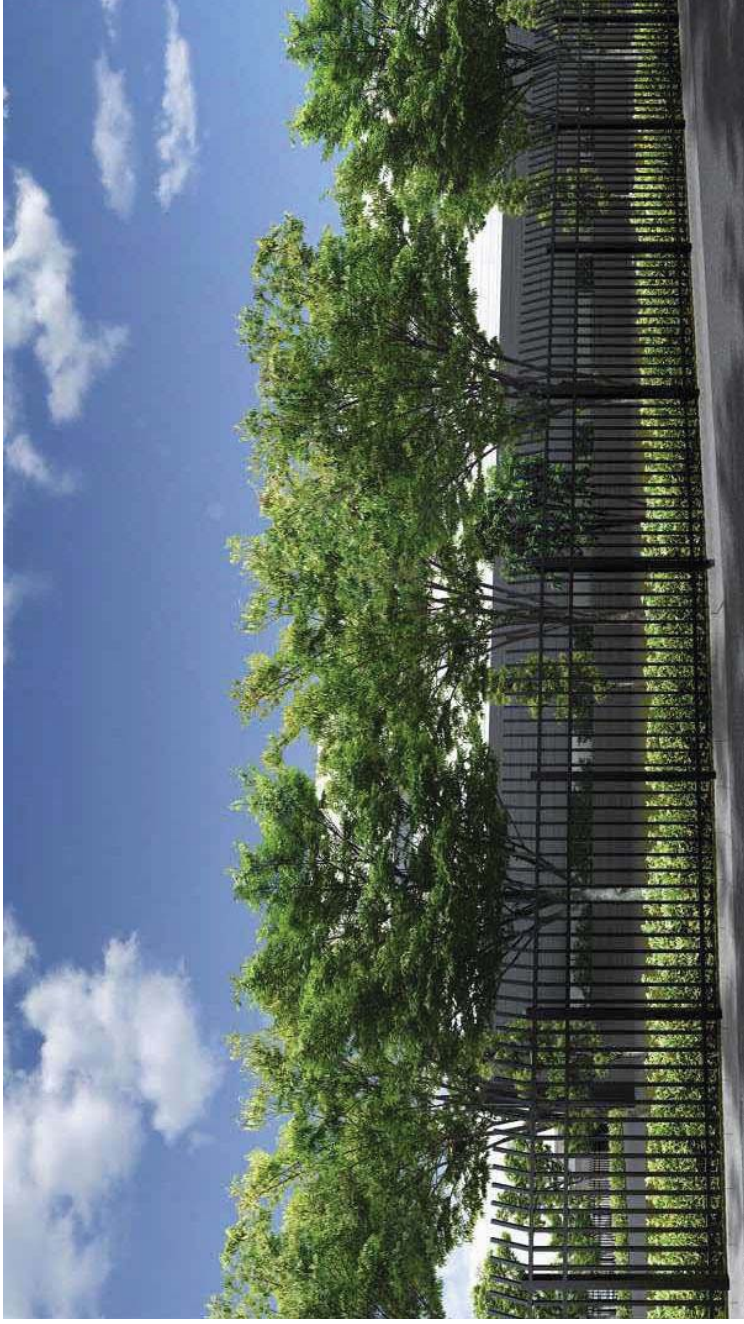


樹木を開発地境界へ配置することで建物の圧迫感を軽減している。これにより、距離のある視線に対しても圧迫感を軽減している。

パース資料の補足③

第二回説明会資料にて使用したパースは、第一回説明会プランとの住宅地からの見え方（GL+1.5m）との対比を分かりやすくするため、樹木を透過し本数を間引いて表現していた。前回の都市計画審議会でのご指摘を受け透過及び本数を間引く表現を無くしたパースを補足する。

視点の追加

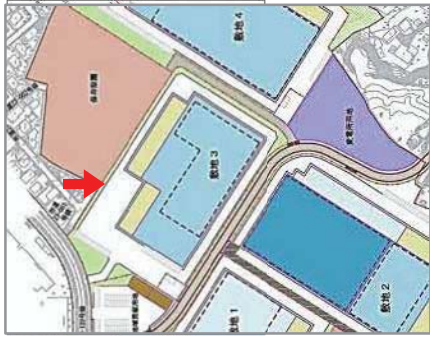


樹木を開発地境界へ配置することで建物の圧迫感を軽減している。これにより、圧迫感を感じやすい近くからの視線に対しより軽減効果を発揮する。

パース資料の補足④

第二回説明会資料にて使用したパースは、第一回説明会プランとの住宅地からの見え方（GL+1.5m）との対比を分かりやすくするため、樹木を透過し本数を間引いて表現していた。前回の都市計画審議会でのご指摘を受け透過及び本数を間引く表現を無くしたパースを補足する。

視点の追加



樹木を開発地境界へ配置することで建物の圧迫感を軽減している。これにより、距離のある視線に対しても圧迫感を軽減している。より遠くの視線には樹木の効果は低くなるが、建物との距離が離れることで、圧迫感は軽減される。

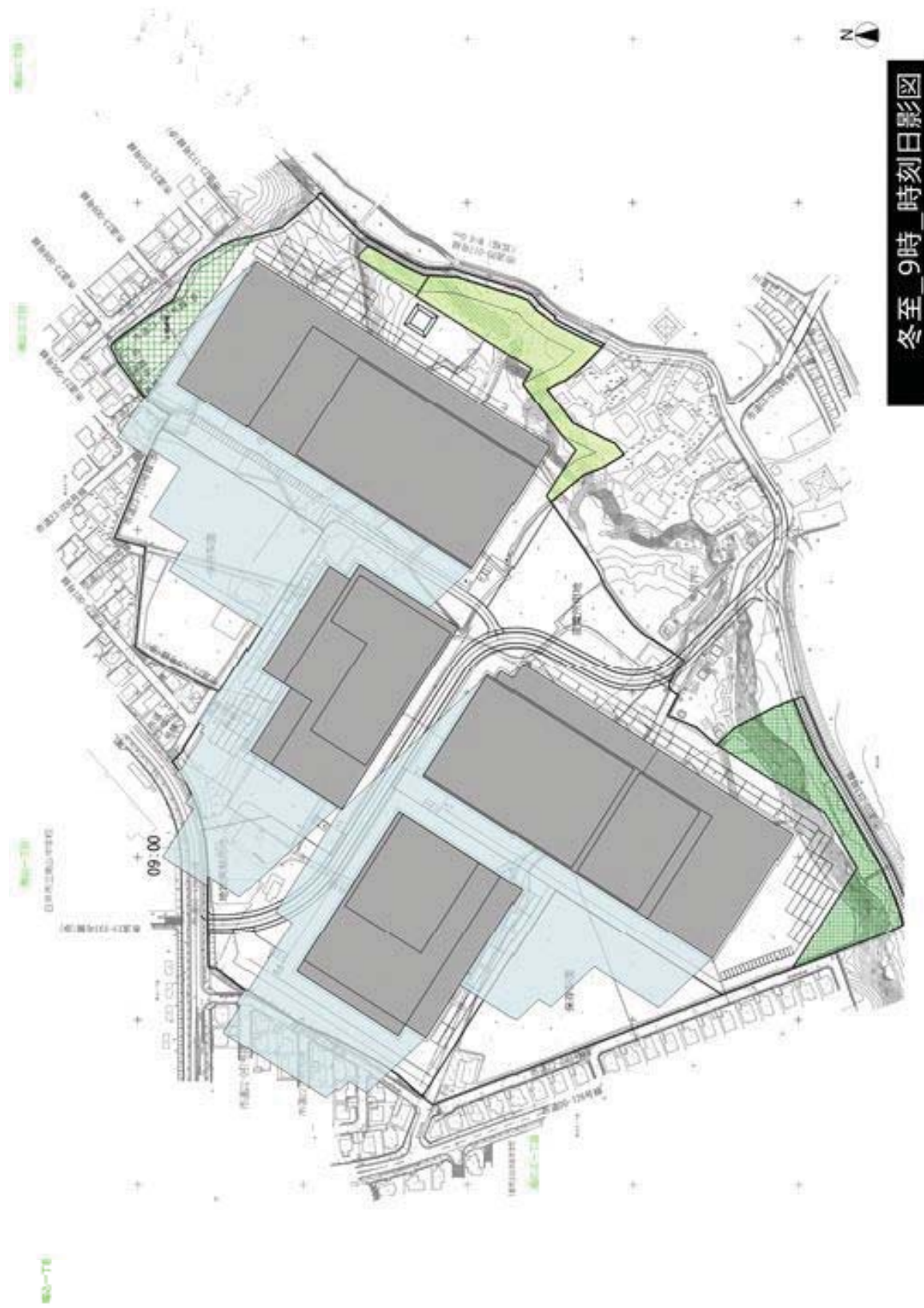


実日影図 (冬至)



冬至_8時_時刻日影図

実日影図 (冬至)



実日影図 (冬至)



実日影図 (冬至)



冬至_11時_時刻日影図

実日影図 (冬至)



実日影図 (冬至)



実日影図 (冬至)



冬至_14時_時刻日影図

実日影図 (冬至)



実日影図 (冬至)



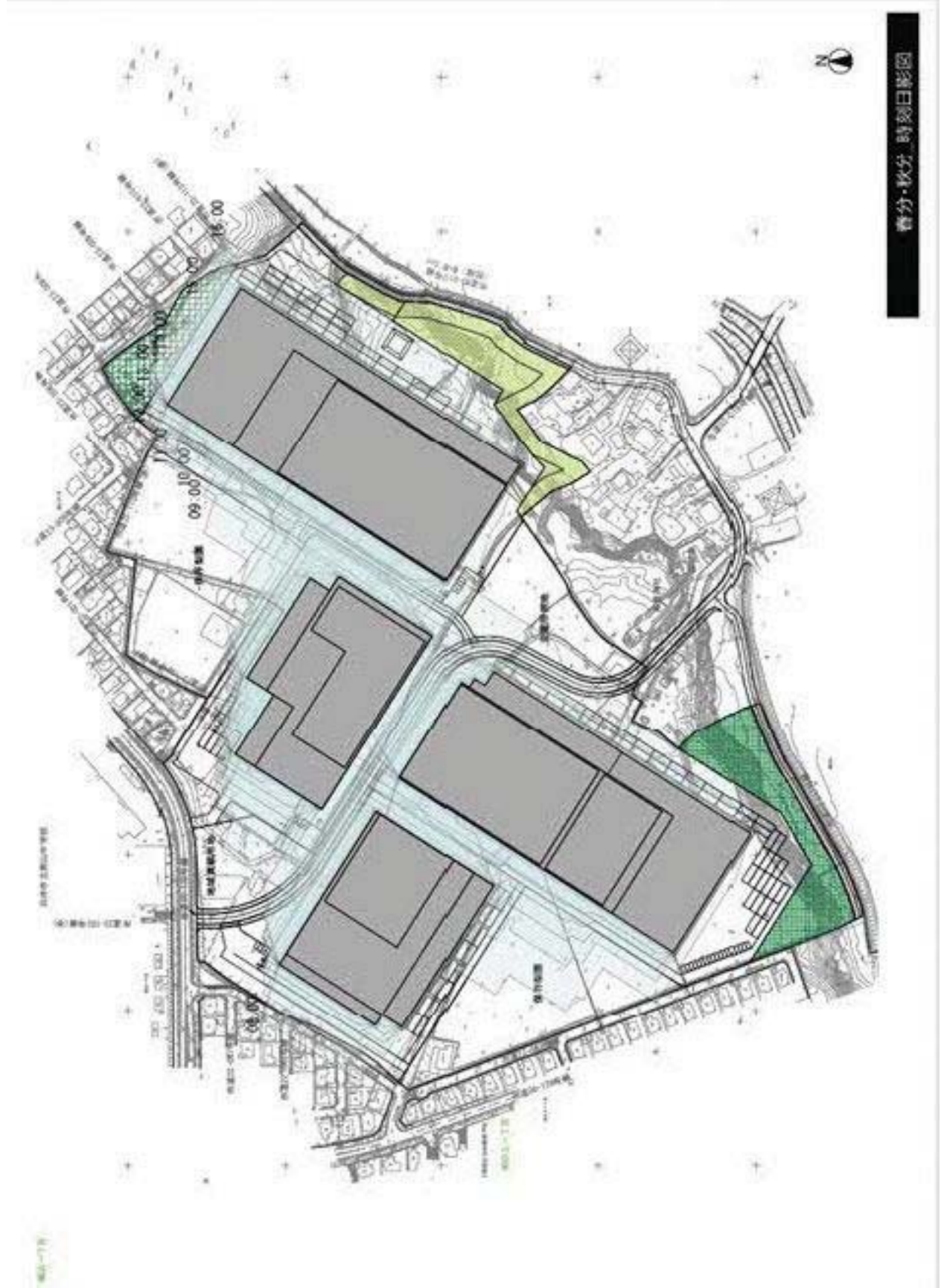
冬至_16時_時刻日影図

実日影図 (冬至)



冬至 実日影図

実日影図 (春分・秋分)



実日影図 (夏至)



夏至_時刻日影図

(仮称) 白井DC計画・風環境解析報告書

I. 解析目的

(仮称) 白井DC計画において、計画建物周辺の気流分布に関する三次元場の詳細な調査を行い、計画建物周辺の風環境に関する知見を得る。シミュレーションは、16風向(N・NNE・NE・ENE・E・ESE・SE・SSE・S・SSW・SW・WSW・W・WNW・NW・NNW)を選定し、建設前後におけるモデルのシミュレーション結果に対して、村上方式※1の評価方法を用いて各評価点の風環境評価を行った。

※1 村上方式：地上1.5mにおける日最大瞬間風速の超過頻度を用いる評価方法
 その他、村上方式と並び一般的な評価方法として風工方式があるが地上5mでの評価となるため、戸建て住環境を重点に評価する為に、本方式を採用している。

II. 風環境評価方法

16風向に対し日最大平均風速10/G.F.(m/sec)、15/G.F.(m/sec)、20/G.F.(m/sec)における超過頻度(その風速を超える確率)を求め、表2に示す風環境評価尺度と対応させ評価を行った。

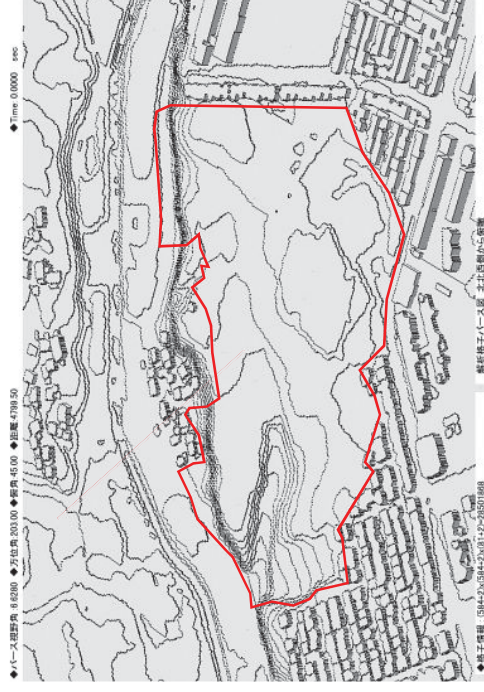
表2 強風の出現頻度に基づく風環境評価尺度

ランク	強風による影響の程度	対応する空間用途の例	評価する強風のレベルと許容される超過頻度 日最大平均風速(m/sec)		
			10/G.F.	15/G.F.	20/G.F.
1	最も影響を受けやすい用途の場所	住宅地の高層ビル、商店街	10% (37日)	0.90% (3日)	0.08% (0.3日)
2	影響を受けやすい用途の場所	住宅街	22% (80日)	3.60% (13日)	0.60% (2日)
3	比較的影響を受けにくい用途の場所	事務所街	35% (128日)	7% (26日)	1.50% (5日)
4		ランク3の条件を満たさない領域			

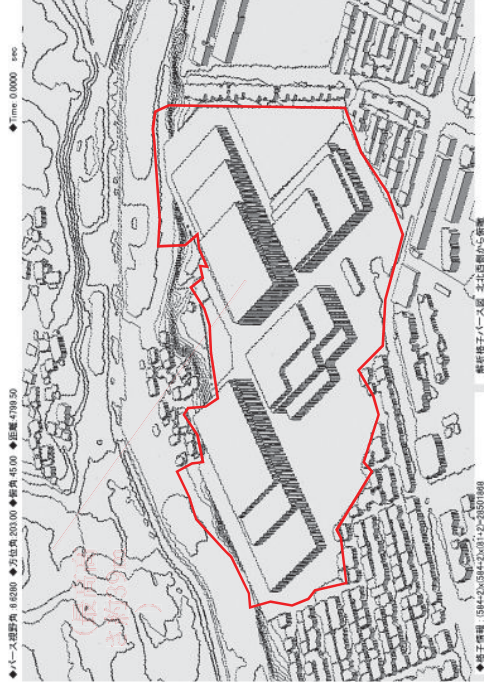
住宅街や公園の用途に対応している風環境

10/G.F. (m/sec)・・・ゴミが舞い上がる。干し物が飛ぶ。
 15/G.F. (m/sec)・・・立て看板、自転車等が倒れる。歩行困難。
 20/G.F. (m/sec)・・・風に吹き飛ばされそうになる等の現象が確実に発生する

建設前のモデル



建設後のモデル

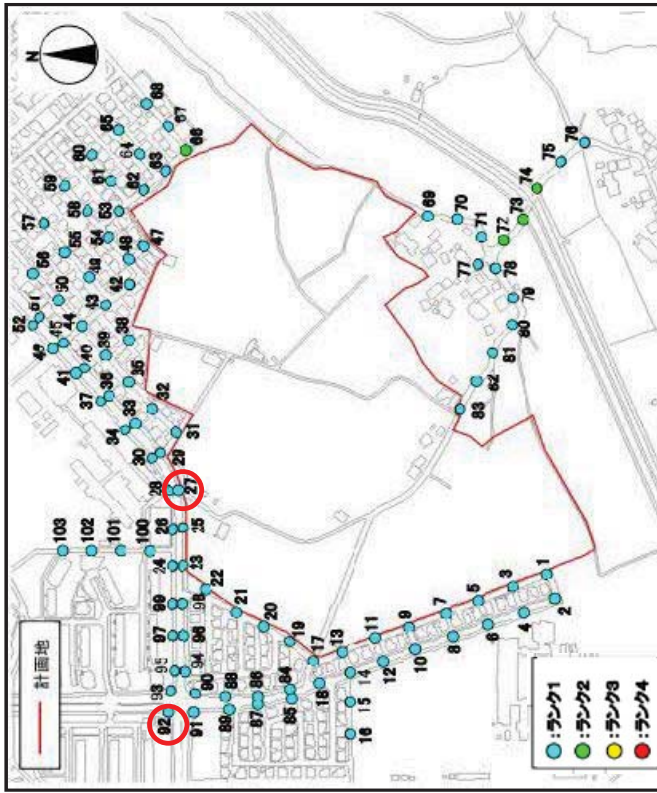


(仮称) 白井DC計画・風環境解析報告書

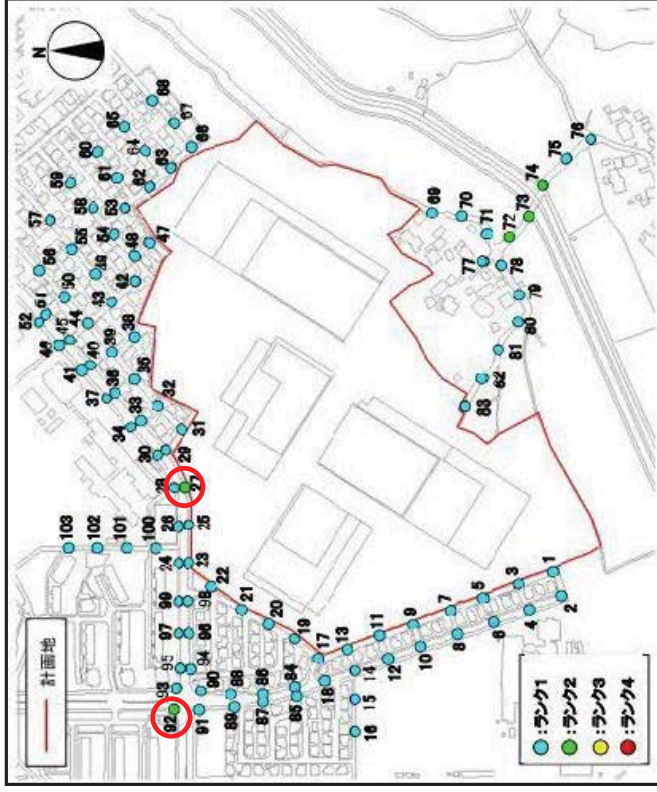
III. 解析結果

解析の結果、建設前後での影響について下図の様に開発地周囲のポイントにて評価尺度により纏めた。いずれも前項のランクとして住宅街に適用した環境であった。

建設前の結果



建設後の結果



評価点	建設前	建設後	評価点	建設前	建設後
1	1	1	51	1	1
2	1	1	52	1	1
3	1	1	53	1	1
4	1	1	54	1	1
5	1	1	55	1	1
6	1	1	56	1	1
7	1	1	57	1	1
8	1	1	58	1	1
9	1	1	59	1	1
10	1	1	60	1	1
11	1	1	61	1	1
12	1	1	62	1	1
13	1	1	63	1	1
14	1	1	64	1	1
15	1	1	65	1	1
16	2	1	66	2	1
17	1	1	67	1	1
18	1	1	68	1	1
19	1	1	69	1	1
20	1	1	70	1	1
21	1	1	71	1	1
22	2	2	72	2	2
23	1	1	73	2	2
24	1	1	74	2	2
25	1	1	75	1	1
26	1	1	76	1	1
27	1	2	77	1	1
28	1	1	78	1	1
29	1	1	79	1	1
30	1	1	80	1	1
31	1	1	81	1	1
32	1	1	82	1	1
33	1	1	83	1	1
34	1	1	84	1	1
35	1	1	85	1	1
36	1	1	86	1	1
37	1	1	87	1	1
38	1	1	88	1	1
39	1	1	89	1	1
40	1	1	90	1	1
41	1	1	91	1	1
42	1	1	92	1	2
43	1	1	93	1	1
44	1	1	94	1	1
45	1	1	95	1	1
46	1	1	96	1	1
47	1	1	97	1	1
48	1	1	98	1	1
49	1	1	99	1	1
50	1	1	100	1	1
			101	1	1
			102	1	1
			103	1	1

IV. 風環境評価結果

評価点103地点において、いずれも住宅街や公園の用途に対応する風環境である。各評価尺度で確認すると、
建設前で ランク1 99地点 / ランク2 4地点であったのに対し、
建設後で ランク1 98地点 / ランク2 5地点となった。
 ランク1からランク2へ変化した地点は、上記の図の通りマンション敷地の角地（No92）と市道側（No27）の2地点となった。
 ランク2からランク1へ変化した地点は、上記の図の通り東側住宅街角地（No66）の1地点となった。